



発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880

No.807

■主な内容

- 30 **一特集一**
- 32 **第6回郷土伝統芸能のつどい**
- 32 **ぼくとわたしの作品【芦原中学校】**
- 32 **高濱虚子記念館からの講座募集**
- 33 **6月講座募集のご案内／俳句・短歌**
- 35 **公民館関係役員研修会報告など**



5月5日端午の節句、ゴールデンウィークの最終日。初節句の家では、格別の思いで鯉のぼりを上げることでしょう。

親の願いが鯉のぼりに込められています。5色の吹流、鯉のぼりは、幼子の無事な成長を願って「魔除け」の意味。カラカラと回る矢車も同様。黒の真鯉がお父さん、赤い緋鯉がお母さん、青や緑はこどもたちと家族の幸福。内飾りの兜は、こどもの身代りに厄を受取る「お守り」として飾ります。我が家で兜を求めた懐かしい日々を思いをはせます。鯉のぼりを立てて祝う風習が定着している5日には菖蒲の節句の風習もあります。菖蒲の葉・根・ヨモギを風呂に入れます。奈良時代から厄払いを目的として菖蒲湯に入ります。当時は邪気や悪鬼を払う薬草とされ、軒にさしてお湯に入れて無病息災を祈ったのです。江戸時代に入ってから、その目的が少しずつ変化して、重要な式日と定めお祝いの品を持って江戸城に向いたよう。菖蒲湯に入るという風習はこの時代も続き庶民にも広がり、今に続いているのです。世代は変わっても、素朴な習慣、行事は残したいものです。

編集委員 倉内 さよ

